

平成30年第2回理事会議事録

- 日 時：平成30年3月26日（月） 13:00～16:00
- 会 場：九州大学 総合研究棟1階・セミナー室104
- 出席者：赤池孝章 理事長、
大西 真、川原一芳、河村好章、菊池 賢、小松澤 均、寺尾 豊、富田治芳、中川一路、
中根明夫、長宗秀明、西川喜代孝、林 哲也、堀口安彦、松下 治、山口博之 各理事
川端重忠、西川禎一 両監事
荒川宜親 評議員会議長、山崎伸二 評議員会副議長
- 欠席者：高井伸二 理事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）：赤池理事長より以下の挨拶があった。今年2月に第1回理事会を開催したが、新たな執行体制で、3年間舵取りを行うので、協力の程宜しくお願ひしたい。今日の理事会では、主にこの後の評議員会と会務総会(2日目)の段取りについて(各担当理事の報告の有無)、確認をする。また前回の会議で認めてもらったように今回の理事会からペーパーレス会議とする(事前に pdf ファイルを配信)。その後、前回の理事会で欠席した、大西理事と中川理事から挨拶があった。

II. 確認事項

前回理事会（平成30年第1回理事会）の議事録について：（赤池理事長）

内容を確認し、修正等あれば、指摘してほしい。発言内容(会話)をそのまま起こしているのだから分かり難い箇所がある。開示されるということも踏まえ修正してほしい。あらためて修正事項を加味し議事録の確定作業を行うことになった。

III. 報告

- 1) 第91回総会開催報告（林 第91回総会長）：赤池理事長より。今回の理事会、評議員会そして総会の準備をしてもらった林第91回総会長に、細菌学会を代表してお礼を述べる。
引き続き、林第91回総会長より資料に基づき、総会の準備状況に関して以下の報告があった。
前回理事会で説明した日程に、大きな変更はない。ポスターの使用言語に関して明記していなかった。韓国からの発表者もいるので、可能な限り英語(並記)でポスターを作成してほしいと、事務局を通して会員にメールを配信してもらった。
- 2) 第92回総会準備状況報告（山口 第92回総会長）：山口 第92回総会長から資料に基づき、以下の報告があった。今回の総会の中で、来年の総会の予告スライドをセッションの間に入れてもらえることになった。林理事（総会長）に感謝する。前回の理事会で報告した準備状況から大きく変わった点はないので、評議員会で報告する内容を掻い摘んで話をする。まず1点目は、通常の総会では会期が3月末だが、来年の総会では会期を4月下旬(4/23-25)に変更した。その理由(3月末では雪の影響により交通手段が乱れる恐れがあったので)と決定に至る経緯(理事会と北海道支部会での審議を通して決定)も含め説明したい。2点目は、今回参加費を3,000円値上げするので、その理由(4月下旬は教育機関では授業・実習など始まっているので参加者が少なくなることが懸念されるので)を説明したい。3点目は、第92回の総会では、デジタルポスターのセッションを設け、一般演題に登録したすべての参加者にスライド発表をしてもらおう、ということの説明する(70インチのモニターを用いた5分程度のpptスライド3-5枚程度を用いた口頭発表)。4点目は、例年通り選抜WSを実施するが、その中で優秀な発表者を選抜し表彰(副賞の賞金授与等を検討中)することを説明する。選抜WSは事前の査読で選ばれるが、漏れてしまった演題に対して、デジポスの発表内容を審査し、選抜WSへの敗者復活戦を設ける予定である。選考基準については、プログラム企画調整委員会と相談しながら決めていく予定である。5点目としては、総会前日(4/22)に、市民公開講座を総会会場で開催するので、その内容[演者：中垣俊之先生(北海道大学/イグノーベ賞受賞)/高井研先生(海洋研究開発機構)]についても説明する。6点目は、ミキサーをやらない代わりに、ポスター/デジポス会場に、コーヒーと水のケータリングサービスを入れ、会期中はいつでもポスター会場でコーヒーを飲みながら議論することができる環境を整えたい。以下、2つの点については、理事会に諮りたい。
1点目は、市民公開講座を前日の夕方実施するので、評議員会と理事会を繰り上げて開催する必要がある。そこで理事会の開始を9:00頃から開始することについて(開始時刻はあくまで案)、審議してほしい。2点目は、3日目の開始時間だが、できるだけ多くの選抜WSの発表枠を確保したいので、朝8:00からとしたい。審議の結果、第92回総会前日の理事会開始時間は、次回の理事会で改めて審議することになり、それ以外の日程(3日目のスタートを朝8:00からとすること)に関しては了承された。またポスターと選抜WSからの

ダブルでの優秀賞の選抜を実施することについて了承された。その一方で、選抜WS優秀賞の趣旨、選抜方法、副賞のあり方についてはシンポジウム企画調整委員会での審議を踏まえ、詰めていくことになった。その意向を踏まえ、次回の理事会であらためて説明することも決まった。

IV. 報告事項

1) **第93回総会について** (赤池理事長)：赤池理事長より、前回の理事会で、第93回の総会長候補者を名古屋大学の荒川宜親先生とすることが認められたため、総会長就任について正式に依頼した結果、承諾が得られたことが報告された。本件をこの後開催される評議員会に諮ることになった。

2) 総務部会報告

①総務・渉外担当報告 (河村理事)：河村理事より資料に基づき以下の報告があった。平成30年3月14日現在、名誉会員は39名(±0)、正会員は1,768名(+10名)、学生会員は526名(+14名)、賛助会員は36社(±0)、総会員数は2,294名(*括弧内は平成30年1月30日時点との比較)。昨年2月28日の時点での総会員数は2,358名であり、64名減少した。会員数の年次推移を見ると、平成11年の3,442名をピークに、平成22年以降は3,000名を下回り、現在もその減少に歯止めがかかっていない。ここ10年で医学系/歯学系の会員は1割程度、薬学系会員に関しては3割減少していることが判明した。さらに詳しい調査を行い、その内容について報告するとともに、会員数減少に歯止めをかけるための対策に繋げたい。

②選挙関連担当報告 (川原理事)：川原理事から以下の報告があった。昨年の選挙で問題になった点があった。専門分野で選ばれた候補者が辞退した際、繰り上げ候補者が既に支部別で選出されていた場合の対応が明確になっていないことが判明したので、その点を次回の選挙に向け審議していきたい。

3) 財務部会報告

①会費・会計担当報告 (河村理事)：前回の理事会で報告済みなので、今回は特になし。評議員会と会務総会での報告は、堀口理事が(前理事長として)担当する。

4) 広報部会報告

①広報・メディア分野担当報告 (河村理事)：河村理事より資料に基づき、以下の報告があった。関連学会の総会において、細菌学会案内に係る啓発活動はあまり活発ではないと思われる。2月に開催された臨床微生物学会では、第91回総会の案内が全く見られなかった。レトロな方法だが、関連学会の総会時にチラシやポスターを配布するといったことを含めた広報を検討していきたい。老舗な細菌学会だが、名前は知っているが中身は知らない、といったことになってはまずい。委員の意見を踏まえ、細菌学会の”見える化”を進めたい。

②HP・SNS分野担当報告 (中川理事)：中川理事より以下の説明があった。総会会期中に開催される委員会の中で、HPやfacebookに関して検討し、あらためて次回の理事会で報告したい。

5) 産官学連携部会報告

①産官学連携分野担当報告 (菊池理事)：菊池理事から以下の報告があった。前回の理事会でも紹介したが、関連学会へのアンケート(会員数の動向など)結果の集計を進めている。新たに立ち上がった産官学連携委員会で、学会間の繋がりをどのようにしていくかを議論したい。特に官との繋がりを築く方策を検討する必要がある。

6) 学術部会

①学術支援・評価担当報告 (長宗理事)：長宗理事より以下の報告があった。学術評価に関しては、例年通り、本総会にて優秀発表賞の選抜をポスター発表演題から行う予定である。12名の委員を4グループに分け、審査を実施する。

②学術企画分野

1. シンポジウム等企画担当報告 (長宗理事)：長宗理事より以下の報告があった。3/28に開催する委員会で、来年の総会内容の決め方についての議論を開始したい。

2. バイオセーフティー担当報告 (大西理事)：大西理事より以下の報告があった。委員会メンバーとして河村理事を副委員長とし、9名の委員を選出した。今年度中に病原体等安全管理指針の改定を行う旨、明日の委員会で委員に伝える予定である。BSLレベルのアップデートが必要であり、理事からも広く意見を聞きながら慎重に改定作業を進めたい。

3. ICD制度協議会等担当報告 (菊池理事)：菊池理事より以下の報告があった。来年の総会のICD講習会は決まっているので、第93回総会のICD講習会の実施に向け、窓口となってICDとの調整を進めたい。

③学術交流分野

1. 日本微生物学連盟/日本学術会議担当報告 (川原理事)：川原理事より以下の報告があった。次回4月20日に開催される微生物学連盟の総会での審議内容について、次回の理事会で報告する予定で

ある。引き続き資料に基づき同連盟の役員選挙に関する説明が以下のようにあった。連盟の理事長を決めることになっている。前回は選挙での選出は行われなかったが、今回は選挙することになった。理事長は、日本学術会議会員もしくは連盟に加盟する各学会の代表者(あるいは連携会員)がその任に当たる。そこで日本細菌学会からの候補者について、この理事会で審議してもらいたい。審議の結果、赤池理事長と川原理事が、連盟の動向を踏まえ、細菌学会から候補者を推薦することが、了承された。

2. 日本医学会連合担当報告(菊池理事)：菊池理事より以下の報告があった。2月に会議があったが都合がつかず出席できなかった。次回の会議には出席し、その内容を報告したい。
3. 予防接種推進専門協議会担当報告(大西理事)：大西理事から以下の報告があった。年に6回程度開催されるが、前回は都合がつかず欠席した。必要であれば、議事録の提出を持って報告に代えさせてもらいたい。

7) 教育部会報告

- ①次世代教育・人材育成担当報告(松下理事)：松下理事から以下の報告があった。2017年の活動報告だが、支援費15万円で、野田先生にアウトバウンド型の活動として、小・中・高校への出張公演(18校、受講者約3,600名)を実施してもらった。今後の初等中等教育との連携のあり方としては、野田先生のアウトバウンド型の活動に加え、「持続可能で組織的な教育活動が必要である」、ということが前理事会で確認されている。そこで現在会員により行われているインバウンド活動(高大連携事業)に、日本細菌学会の後援といったようなものを与えることについての検討に着手した。まずアンケートをとって検討した結果、肯定的な意見が多かったので、現理事会での具体化を目指したい。細菌学研究者の育成だが、細菌学若手コロッセウムへの支援費として30万円を予算化している。昨年は、筑波大学の野村先生が代表世話人を務めた(昨年8月につくばで開催、参加者は47名)。若手コロッセウムは、若手研究者が切磋琢磨する場であるが、いずれの学会からも独立した学術集会である。イベントそのものが本体となっており、組織や規約はないが、細菌学会が財務支援をしている。そのアウトカムだが、今回の学会でも冠シンポジウムを提案し、採択を受けている(学会へのフィードバック)。2018年だが、岡山大学の私と大原監事とで代表世話人を務めることになっている。岡山県牛窓町の島で開催する予定である。
- ②教育資源発掘・保存担当(松下理事)：松下理事より以下の報告があった。前理事会の前から、千葉大学の清水先生が率いる組織で作製していたが、財務的な諸問題があり、区切りがついたところで作業を中断した。その後、作製に係る活動は凍結している。学会の財務状況の改善を待って活動を再開したい。今期の委員会構成は私と山口理事の二人とし、活動はとりあえず凍結としたい。

8) 出版部会報告

- ①学会誌担当報告(大西理事)：大西理事より以下の報告があった。2017年は第72巻(4号)を刊行した。一昨年池先生と昨年の中山先生の浅川賞受賞論文と住友先生の黒屋奨学賞受賞論文の3編が掲載されている。前堀口理事長の理事会から、積極的に原稿を求めない方針としているが、その方針を今期も継続していくのであれば、そのようにしていきたい。2018年は、掲載が確定している原著論文1編と黒屋奨学賞受賞論文2編をもって刊行準備を進めたい。
- ②MI誌担当報告(寺尾理事)：寺尾理事より資料に基づき以下の報告があった。25名の委員を決定した。明日初めての委員会を開催する。Bacteriologyの領域に関して、投稿から採択までの期間が43日と徐々に短くなっていたが、昨年は100日と倍増した。副編集長からのコメントにもあったが、Associate editorや査読者を指名する際に、現在使用されているキーワードリストからでは絞り難い状況にある。そこで新たなキーワード表を作成することについて、明日の委員会に諮りたい。
- ③用語集担当報告(富田理事)：富田理事より以下の報告があった。委員会構成を決定した。副委員長は川原理事と河村理事で、多くは前委員会委員を選出した。現在用語集のWeb版(電子版)だが、デモ版の公開が予定されている。どのような形でいつ公開するのか、また改定版についても合わせて委員会で検討したい。*デモ版は、試験的に会員限定での公開が既に決まっている。

9) 国際交流部会報告

- ①IUMS等担当報告(中川理事)：中川理事より、今年の10月に韓国で理事会(評議会)が開催されることが報告された。
- ②日韓微生物等担当報告(小松澤理事)：小松澤理事より以下の報告があった。本総会での日韓のジョイントの形態については、前任の桑野先生と林理事が相談し、実施している。実際には2年後の日韓シンポに向け、あり方も含め、委員会で審議・調整を行っていくことになる。

10) 将来計画部会

- ①将来構想等担当報告(堀口理事)：堀口理事から以下の報告があった。前理事会では、理事会メンバー全員を委員としたので、委員会としての活動は行っていない。委員会として活動をするとなると、委員を選

出する必要がある。赤池理事長より、特別なことがある場合には、改めて本委員会をワーキンググループのような形で設置することとし、本委員会の活動は当面凍結とすることが述べられた。

11) 社会交流部会

①研究倫理・安全保障分野担当報告（赤池理事長）：赤池理事長から以下の報告があった。何か問題が生じた際に、事後処理的に対応していくことになる。また何か社会的に問題が指摘された場合にも、その都度対応していく。

②利益相反担当報告（中根理事）：中根理事より以下の報告があった。委員会メンバーを選出した。必要に応じて活動していくことになる。

12) その他：特になし。

V. 審議事項

1) **委員会委員について**：赤池理事長から資料に基づき以下の説明があった。各委員会の委員が選出されたので、その承認について審議したい。活動する上で委員の追加が必要であれば、随時承認審査を行うこととする。審議の結果、各委員会における全委員候補者が承認された。

2) **評議員会および会務総会での報告内容、報告者の確認について**：報告事項で報告・審議済み(報告事項参照)

3) **エー・イー企画との複数年契約について**：赤池理事長から資料に基づき以下の説明があった。前理事会体制の最後の理事会にて、エー・イー企画から複数年契約の提案について審議した結果、継続審議となっていた。この件に関しては、次期総会長の意向もあるので、どのように審議していくかの方向性については理事長に一任してほしい。審議の結果、継続審議となった。

4) 学会賞の選考について：

赤池理事長より、公募要領や選考における申し合わせ等、更に改善できるものについて検討していきたいことが述べられた。

5) その他：特になし。

VI. その他

平成30年評議員会について：

開催日時＝2018年3月26日（月）16：00～18：00
会 場＝九州大学 基礎研究B棟・2階講義室

平成30年会務総会について

会期：2018年3月28日（水）13：30～14：40
会場：福岡国際会議場・第1会場

平成30年第3回理事会について：

開催日時＝2018年7月下旬～8月中旬頃
会 場＝東京駅近郊の会議室

VII. 閉会